

本誌は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、(一社)教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」にのっとり配布しております。

特集

『国語』教科書の歩み

巻頭
エッセイ

明朝体
鳥海修

書写

平仮名が紡ぐ
物語文学

ブック
ガイド

本で触れる
十代のリアル

国語教育相談室

中学校

no.

88

光村図書

「静夜思」の「牀」

早稲田大学教授
森山卓郎

先日、湖南省の博物館に行った。長沙から出土した唐代の井戸の遺跡が展示されていた。煉瓦を重ねた三十センチほどの高さの囲い（井桁・壁）の、直径二、三メートルのかなり大きな丸い井戸だった（囲いの上は平らで厚さ四十センチ位）。その展示の解説に「牀前明月光」の「牀」とはこのような囲いのこと、と書いてあった。私は驚いた。

まず、ここで、李白のあの「静夜思」を思い出す必要がある。

牀前看月光

牀前月光を見る

疑是地上霜

疑ふらくは是れ地上の霜かと

挙頭望山月

頭を挙げて山月を望み

低頭思故郷

頭を低れて故郷を思い

これは有名な詩だが、実は中国では、起句と転句の形が違い、「牀前明月光」

「挙頭望明月」と教えられている（森瀬壽三氏『唐詩新攷』によれば「明月」となっているのは明末の『唐詩選』以来だが、日本の本文ではこの部分が修訂されている）。博物館の展示の説明も中国での本文の形だが、「静夜思」の解釈のことを述べている。

さて、「牀前」に戻ろう。一般には起句は「寝台の前（の床）を照らす光を見る」と解釈される。私もその霜という見立てがいいと思ってきた。が、博物館の説明は、「牀」を井戸の囲いだと言う。確かに辞典類を見ると「牀（bed）」には「井桁」という意味があり、唐代の用例もある。置き換えると「井戸の前を照らす月光を見る」という解釈になるが、月光は周囲も照らすから、「井戸の前で月光を見る」という解釈もできる。月光は井戸にもさしこんでいると想像できる（水面に月が映るといふ想像はやりすぎか）。井戸は村や町の重要施設。望郷につながる。

「牀」が井戸の囲いでも、「寝台」と同様、起句「看月光」と結句「低頭」の姿勢は同一と言える。承句も、「地面の上の霜かと疑われる（霜のようだ）」という点で屋外として解釈されるが、問題はない。

ついにながら、転句の「山月」の解釈も微妙だ。一般には「山の端にかかった月」と解釈されているようだが、「山の上の月」と考える余地もある。

こんな話を学生たちとしていたら、ある中国人留学生から、小学校で「牀」を「食卓」と習ったと聞いた（この意味は未確認だが、寝台の代用か）。挿絵があつて、李白らしき人物が食卓に酒を置いて一杯やっていたそつだ。

文章の解釈は、まずは多様な可能性の中から合理的に考えていく必要がある。「井」の中の蛙にならないためにも、いろんな考え方を虚心に検討することは重要だ。さて、あなたの解釈は？

CONTENTS

探検！言葉の森 37 「静夜思」の「牀」 森山卓郎

巻頭エッセイ 言葉と向き合う 02 明朝体 鳥海 修

特集 04 『国語』教科書の歩み

筆跡で読む 古典作品 2 10 平仮名が紡ぐ物語文学 島谷弘幸

授業に役立つ ブックガイド 4 12 本で触れる十代のリアル 兼森理恵

明朝体

書体デザイナー

鳥海 修

私は書体作りを生業にしている。この時代、フォントを作っていると言った方が分かりやすいかも知れない。日本語を表記するためのフォントは、漢字、平仮名、片仮名、それにアルファベットが必要で、それぞれ作る数もばらばらだ。特に漢字は一万四五〇〇字も作る。その他に句読点やら括弧、それに各種の記号などを含めると総数で二万三〇〇〇字もの文字を作って一つのフォントがで上がる。AI流行の昨今、フォント作りもさぞ自動化されているのではと想像する向きもあるが、パソコンは利用するものの、全て例外なく一字一字手で作っている。

日本語はご存知のように、漢字、平仮名、片仮名、アルファベットの四種類の文字を使って表記するが、こんな複雑な表記をする言語は日本において他にない。なぜか。日本に通用する文字がなかったおよそ一三〇〇年前、仏教とともに中国から漢字が伝えられると、東アジアの共通語だった漢語と漢字を習得するために

は「阿」の「㇐」から生まれた）を使って読みを表し、漢文訓読の補助的な役割を果たした。

こうして漢字から派生して日本固有の平仮名と片仮名が生まれたものの、これらの文字が交じり合って現在のような表記になるまでには相当の時間を要した。

さて明朝体である。数あるフォントの中でもっとも重要な位置をしめるのが明朝体だ。なぜなら明治二年に中国から明朝体活字（漢字のみ）が伝えられ、その後、三十年近い年月を経て仮名の活字が作られて以来、今日に至るまでのおよそ一四〇年の間、いくつかの会社によって新規制作や改良を重ねながら、新聞の文字をはじめ、文学、哲学、宗教書など、そのほとんどが明朝体で印刷されてきた。人々はそれを読み、情報を得、知識を蓄え、学び、成長（？）してきた。これにより明朝体は活字の代名詞となり、日本の文化を陰で支えてきたと言っても過言ではない。

このように明朝体が長く利用され続け

るのは読みやすいからだ。とはいってものほとんどの人は読みやすいことに気がついていない。むしろ文字を意識することもなく、ただ単純に文章を読み、物語に没頭しているはずだ。実は明朝体の立ち位置としてはこれが正解で、文字が気になつて文章が頭に入らないものは論外だ。私たちがめざす明朝体は「水のような空気のような」書体であり、呼吸をするように文字を意識しないで読める書体を理想とする。

いま読んでいるこの印刷された文字も実は明朝体なのだが、注意深く観察すると、漢字、平仮名、片仮名でデザインがバラバラなことに気がつく。明朝体の漢字は明の時代に印刷に適した様式として生まれた。細い横線と太い縦線が交差し、横線の終筆には三角形のウロコが付き、四角く幾何学的だ。それに対して平仮名は、平安時代の平仮名に範をとり、時計回りの曲線が多く、書の行書のような複雑な連筆で、字形も大きなものや小さなもの、縦や横に長いものなど多種多様だ。

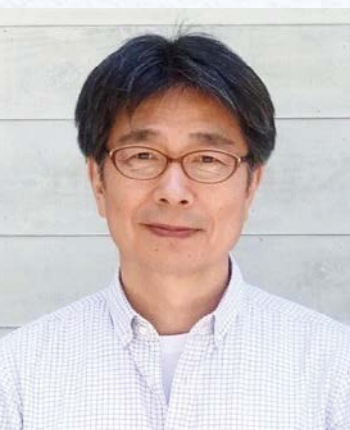
さらに片仮名は手書きの楷書のように直線的で画数が極端に少なく、明朝体の漢字とも平仮名とも違う様式になっている。かつて漢語は漢字、和語は平仮名で表記されていたように、現代では漢語を表す漢字、和語や漢字同士を繋ぐ平仮名、外来語を示す片仮名というように、それぞれの役割分担がはつきりしている。明朝体以外のフォントはゴシック体のように、漢字、平仮名、片仮名、アルファベットに至るまで同じ様式でフラットなデザインになっているが、明朝体は文字の成

り立ちの歴史を内包しつつ文字ごとの役割に合わせるように、異なったデザイン様式を持つ希有なフォントなのだ。漢字は四角くどどまり、平仮名は平安時代に昇華した上代様仮名のごとく縦方向に美しく流れるような線とリズムがあり、文字列を追っていくと小川をゆつくりと流れる水のように、漢字にぶつかっては平仮名が流す。明朝体で組まれた文章にはこうしたリズムがある。

漢語を表す漢字は漢字らしく堂々と、平仮名はたおやかにして繊細、片仮名はしっかりとクールに、そしてアルファベットは欧米の原典を示すにふさわしい重厚さを。この特徴を違和感なく組み合わせるのが明朝体という書体であり、私はこの違いこそが読みやすさに繋がっていると思うし、長く使われる要因もここにあると思う。ただ、最近はスマホの画面のゴシック体を見る機会が増えるとともに、本を読まなくなったというから明朝体の存続が危ぶまれる。だからこそ、優れた明朝体を作りたい。

とりのうみ おむ
鳥海 修

1955年、山形県生まれ。多摩美術大学卒業。79年、株式会社写真研入社。89年、鈴木勉、片田啓一とともに有限会社字工房を設立。現在、同社代表取締役。大日本スクリーン製造株式会社のヒラギノシリーズなどを委託制作。一方で、自社ブランドとして、ベーシック書体を中心に100以上の書体開発に携わる。ヒラギノシリーズで、2005年にグッドデザイン賞を受賞。京都精華大学特任教授。武蔵野美術大学非常勤講師。著書に「文字を作る仕事」（晶文社）など。

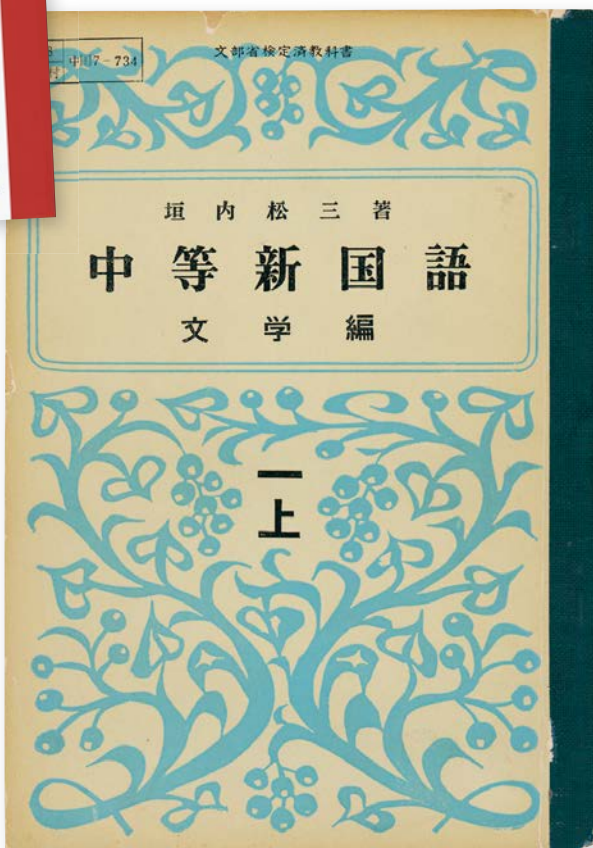


『国語』教科書の

歩み

光村図書は、一九四九年に創立され、小・中学校の国語の教科書を中心に発行を続けて、今年で七十周年を迎えました。

この間、中学校『国語』教科書はさまざまな変化を遂げてきました。その変遷をたどりながら、教科書に込められた願いを振り返ります。



▲1952年度版



▲1981年度版



▲1987年度版



▲1993年度版



▲1997年度版



▲2002年度版

変わるもの、 変わらないもの

中学校の国語教科書『中等新国語』（文学編・言語編）が初めて発行されたのは、一九五二年。前年にはサンフランシスコ平和条約が締結されるなど、日本が新たに戦後の道を歩み出す中での出発でした。

『文学編』を見ると、小説、詩歌、古典、論説、随筆、新聞記事、伝記、戯曲、シナリオなどが、『言語編』では、「討論のしかた」「実用的な手紙の書き方」「創作」など、話すこと・聞くこと、書くことの教材が収録されています。全体的には、現在の教科書とそれほど大きな違いがないことに驚かされます。

この『中等新国語』が基盤になり、以来、

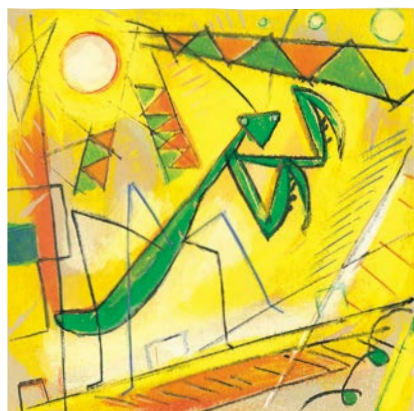
二十回余りの改訂を重ねながら現在の教科書に至っています。この間、学校教育法施行規則に定める中学校三年間の国語の授業時数も、六九年の525時間を最大に、九八年には最小の350時間と大きな変動がありました。これに伴い、教科書のページ数も最大383ページ（七二年度版一年）から、最小269ページ（二〇〇六年度版一年）と、動いています。判型も当初のA5判から、〇六年度版を境にB5判へと変わりました。

また、〇二年度版からカラーページも増え、現在ではほとんどのページがカラーになりました。子どもたちの興味・関心を高めることはもちろんのこと、特別支援教育の観点からも子どもの学習のしやすさに寄り添ったデザインに変わってきています。

体裁の面で光村の中学校教科書の大きな特徴として挙げられるのは、表紙の質感と堅牢さです。一九八七年度版から一貫して、表紙には独自の手触りのある用紙を使い続けています。中学校三年間だけでなく、ずっと大切にもらいたいという願いを込めて、汚れや擦れ、水濡れに強い材質を使い、手になじむような用紙を開発しました。卒業してから、教科書を手にするたびにその手触りで国語の授業を思い起こしてもらえませんか。



▲初代（1993年度版）



▲三代目（2006年度版）



▲五代目（2016年度版）

歴代の 「かまきりりゅうじ」

「野原はうたう」が最初に掲載されたのは1993年度版でした。なかでも「かまきりりゅうじ」は生徒たちの人気者です。歴代のイラストをご紹介します。

（イラスト 初代：渡辺リリコ
二～五代目：保手浜 孝）



▲二代目（1997年度版）



▲四代目（2012年度版）

教材の変遷

長い歴史の中で、教材も変遷を続けてきました。現在、定番教材といわれているものの初出年度をいくつか挙げてみます。

「少年の日の思い出」一九五五年

「坊っちゃん」一九五九年

「走れメロス」一九六一年

「故郷」一九六六年

「大人になれなかつた弟たちに……」一九八七年

「ちよつと立ち止まって」一九八七年

「野原はうたう」一九九三年

長く掲載されている教材でも、時代によって指導のねらいや紙面構成は大きく変わっています。学習の手引きの特徴的な部分（抜粋）を比べてみましょう。

「少年の日の思い出」

●一九五五年度版

この作品には、どんな価値があるか。

●一九六九年度版

「ぼく」が自分だったら、どうしたと思うか。

●一九八七年度版

「僕」が自分の収集を押しつぶしてしまつたあと、夢を見たとしたら、どんな

夢だろうか、想像して書いてみよう。

●二〇一六年度版（現行）

「僕」の考え方や感じ方について、共感するところや疑問に思うところを話し合ってみよう。

「走れメロス」

●一九六一年度版

筆者はなにを書き表そうとしたのか。友情について、みんなて話し合おう。

●一九六九年度版

どの場面に感動したか、それはなぜか、考えてみよう。

作者は、この作品でなにを表現しようとしたのか。主題について考えてみよう。

●一九八七年度版

この作品で最も心を打たれたのはどのようなことか、その事柄や場面について話し合ってみよう。

●二〇一六年度版（現行）

「メロス」の行動や考え方について、共感できたところや、できなかったところを、その理由と共に考えてみよう。

時代が下るとともに、生徒の主体的な読みを尊重するようになつてきたことがうかがえます。

世代を超えて 受け継がれる 教科書を目ざして

「えんぴフライ」「ヤンおばさん」「ルビンのつばの挿絵」……。前号の「国語教育相談室」（一八年九月発行・87号）収録の「社会人200人に聞く 覚えていますか？ 文学の授業」でもご紹介しましたが、あら筋は覚えていなくても、心に残っている主人公や挿絵はあるでしょう。

教科書教材は、同じ時期に同じ教科書で学んだ友達どうしの共通の話題となりうるものではないでしょうか。そして、祖父母や親の世代も親しんできた教材が今も掲載され、世代を超えた共通の話題ともなります。

これからも光村図書では、時を経て色あせず、人々の心の中で熟成され続ける教材を多く生み出してまいります。教科書づくりを通して、文化を創造していくこと、それが七十周年を迎えた光村図書の願いです。

あの教材に 再び出会いたい

これまでに生まれてきたたくさんの教材の中で、今なお継続しているものもあれば、時代の流れの中で使命を終えたものもあります。各年代の教材の一覧は、小社ウェブサイトに「教科書クロニクル」に掲載しています。かつて学習した懐かしい教材に出会えるかもしれません。ぜひご覧ください。

また、現在の教科書には掲載されていないものの中から、特に評判の高かった作品を『光村ライブラリー 中学校編』に収録しています。文学（三巻）・説明文（一卷）・詩（一卷）の全五巻の構成となっております。詳細については小社ウェブサイト「一般書籍」内の商品ページをご覧ください。



▲「光村ライブラリー 中学校編」（全5巻／各巻本体1,000円＋税）

先生方と編集部とをつなぐ懸け橋 「国語教育相談室」

「国語教育相談室」は、日々の授業に役立つ教材研究のための資料や実践事例、最新の教育情報などを掲載し、先生方と教科書編集部とをつなぐ懸け橋としての役割を担っています。

創刊は、1957年5月。一昨年“還暦”を迎えました。

創刊号には、編集委員だった国語教育学者の石森延男先生がこんな巻頭言を寄せています。

国語科の学習は、「ことば」に始まって、「ことば」に終わるといってもいいほどで、(中略) ことばというものをもっていることに気づくと、子どもたちの目は、にわかに育ってくるものです。ものを見る目が、成長してくるからです。いいかえますと、「考える力」が生まれてくるのです。国語科の目標は、一口に言えば、この「考える力」をつけることにあるといってもいいほどです。

ここには、現在移行期を迎えている新しい学習指導要領の理念に通底するものが、既に語られています。

光村図書は、これからも子どもたちの「考える力」を育む教科書と、それを支える先生方の一助となるような充実した「国語教育相談室」を発行してまいります。



教科書クロニクル

あなたが小学生・中学生だったころ、国語の教科書にはどんなお話が載っていたでしょう。「教科書クロニクル」で記憶をたどってみませんか。「あのころのわたし」の懐かしい思い出が、よみがえってくるかもしれません。



▲「教科書クロニクル」には過去教材の一覧を、「教科書 time travel」（小学校）には教材の編集にまつわるエピソードを掲載。

2

平仮名が紡ぐ
物語文学

新しい学習指導要領では、日本の文字文化の豊かさを理解することが、これまで以上に求められています。今回は、『源氏物語』をはじめとする物語文学を取り上げて解説します。



九州国立博物館長
島谷弘幸

1953年岡山県高梁市生まれ。東京教育大学卒。小松茂美博士に師事。東京国立博物館副館長を経て、2015年から九州国立博物館長。文部科学省教科用図書検定調査審議会委員(08～17年度)など歴任。

現在の日本語表記において、漢字と仮名交じり文はごく自然に使われているが、これは奈良時代から平安時代にかけての先人が工夫を重ねて、美しい平仮名(女手)を生み出したことが大きい。これによって、自らの言葉で思想や文学などを表現することができるようになったのである。この時期は、『源氏物語』をはじめとする物語文学が成立するのと同様じ時代である。この日本独自の仮名の成立が、物語文学の成立を促したことは疑いないであろう。

ところで、物語といえば『源氏物語』が思い浮かぶのではなからうか。なかでも、現存最古の「源氏物語絵巻」(徳川美術館・五島美術館蔵)はあまりにも著

名である。その詞書は、五人の能書の寄合書きであることが明らかにされている。執筆を分担した筆者が腕を競って、力強く、あるいは流麗に、さらには繊細にも、リズムカルにも筆を運んで書き連ねていった。

ただ、これだけ世界的にも著名な『源氏物語』であるが、他には平安時代書写の写本は確認されないのが不思議である。実は、その答えの一つと思える資料がある。藤原行成を祖とする能書の家である世尊寺家の五代にあたる伊行が、娘の建礼門院右京大夫のために書き与えた書道の秘伝書である『夜鶴庭訓抄』の冊子の書式を述べたくだりの最後に、「物語は能書の人は書かないものである。他の

人から依頼されても何とか言い逃れして書くな」という記述がある。世尊寺家では家伝の教えを守ったのであろう。他の能書も同様であったのかもしれない。物語に対する評価が低かったとも思える記述である。しかし、新たな文学である物語への関心は広がり、能書ならざる人々に書き継がれて残り、やがて藤原定家によって『源氏物語』は高く評価されることになる。

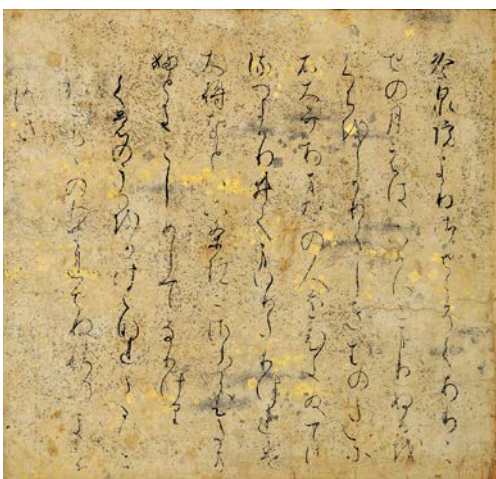
他の物語に範囲を広げても、平安時代書写の物語は伝藤原公任筆の「伊勢物語切」(個人蔵)が確認されるのみである。鎌倉時代になると、ようやく伝藤原為家筆の「伊勢物語切」(東京国立博物館蔵)や重要文化財の「松浦宮物語」(東京国

門家でない我々が原語で千年前の文学を鑑賞できるのは、日本語の特性であるかもしれない。

立博物館蔵、あるいは『源氏物語』と『狭衣物語』の歌を左右に番えて歌合とした伝藤原為家筆「姫路切」などの存在が知られる。新しい文芸作品である物語に対する評価が定着するのに時間を要するということが、これらによって理解できるであろう。しかし、潜在的には多くの人々に支持されていたことは、「源氏物語絵巻」の存在からも想像にたたくない。やがて、物語が評価を高め、文学、歴史などの物語が多くの人々に大切に受けつがれながら、享受されていくことになる。

説話物語の代表ともいえる『竹取物語』では、十四世紀の北朝の天皇である後光厳天皇の筆と伝える断簡の存在が確認されている。現在、近世に作られた「竹取物語絵巻」が国会図書館や立教大学などに所蔵されている。国会図書館蔵の絵巻では、詞書に金泥の下絵を施した華麗な料紙を用いて、行書体と草書体に仮名を交えて美しい連綿を駆使して書き連ねられている。また、和歌の部分を改行してわかりやすくし、一部の段落の末尾には散らし書きでの執筆を見せており、手許に置いて鑑賞する調度として制作したことが明らかである。

また、長編の『平家物語』の全巻を絵巻化した岡山の林原美術館蔵の「平家物



源氏物語絵巻 絵巻二
平安時代 十一世紀 五島美術館蔵

語絵巻」も現存している。こうした絵巻には物語だけではなく、神社の縁起を普及するために作られたものもあり、絵画化された段落を見せながら、それに相応する詞書の部分を読み聞かせて理解を助ける「絵解き」にも用いられた。このため、絵巻の多くは比較的読みやすい書風で書かれることが多い。当時に盛行した書風での書写であり、各時代の美意識が反映したものとして注目される。

また、『源氏物語』なども谷崎潤一郎、与謝野晶子など著名な作家による口語訳がわかりやすいのであるが、必ずしも専



本で触れる 十代のリアル

授業づくりに役立つ本、授業とからめて生徒に読ませたい本などを紹介するリレー連載。今回のご担当は、兼森理恵さん（丸善丸の内本店児童書担当）です。

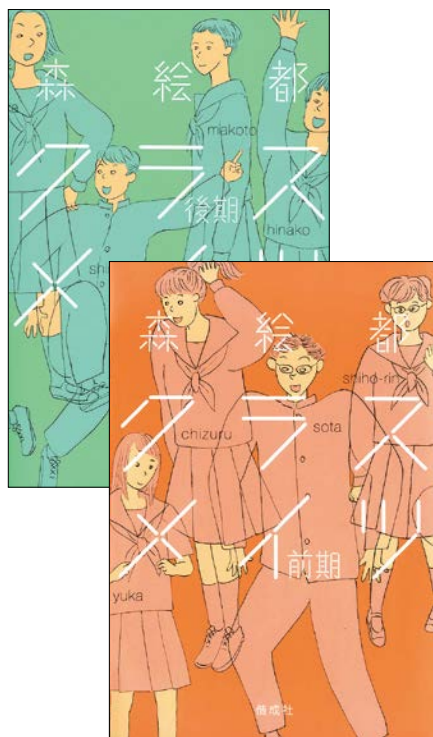


丸善丸の内本店 児童書担当
かね もり り え
兼森理恵
1976年、東京都生まれ。99年、ジュンク堂書店入社。池袋本店、新宿店を経て、現職。児童書担当。書店業のかたわら、絵本レーベル「らいおんbooks」にも携わる。

十代の頃にたくさん本を読んでいてよかったなあと考えたのは、結婚した時だ。いたって普通の家庭に育ったつもりだったが、でも、きちんと同じ時間に食卓を囲み、誰かがちよつとでも危ない目に遭いそうになると、この上なく心配するような家族の出てくる物語を読むたびに、「これはお話の中だからだ」と違和感を覚えるような子どもだった。だから、大人になって出会った夫の家族に本当にびっくりした。だって、「本で読んだまんま」だったのだ！ 物語を通して知っていてよかった。何食わぬ顔をして、私は今、その一員でいる。

話も少なくない。私もそういう本を十代の頃に読めていたら、もっと楽になれていただろう。全く違う個性が、同じ教室に閉じ込められる窮屈な学校生活。でも、「個の違い」を理解するだけで、少しだけ生きやすくなるかもしれない。というわけで、そんな思いを抱える中学生に向けて、十代のリアルがぎゅつと詰まった四作品をおすすめしたい。

語。毎日みんなが同じものを食べるって、よく考えるとなんだか不思議。でも、その味の感じ方はきつと人それぞれだろう。七人の高校生と三人の中学生が主人公の短編連作『きみのためにはだれも泣かない』は、人とかかわりを通して自分を見つめることの大事さ、己を知りその行動に責任を取ることが未来に繋がっていくということが強く伝わってくる。『15歳、ぬけがら』は社会問題を取り扱っている。貧困に苦しみ日々を生き抜くことが苦痛な子どもたちがいることを知るきっかけになってほしい。共感してもしなくてもいい。知ることが大事なのだ。そして、他の人を通して自分の姿も、きつとくつきり見えてくる。



クラスメイツ〈前期・後期〉

森 絵都 著
偕成社／2014年



給食アンサンブル

如月かずさ 作
光村図書出版／2018年



きみのためには だれも泣かない

梨屋アリエ 著
ポプラ社／2016年



15歳、ぬけがら

栗沢まり 著
講談社／2017年

給食アンサンブル

如月かずさ



この給食、
きっと忘れない。

好評発売中

給食アンサンブル

如月かずさ 作 / 五十嵐大介 絵

定価：本体950円＋税
188mm×128mm / 並製 / 192p
ISBN978-4-8138-0078-1 C8093

飛ぶ教室の本

いつもどおりの、
けれど誰かにとっては
特別な給食――
六人の中学生たちの
揺れる心が、
給食をきっかけに
変わっていく。
やさしく胸に響く
アンサンブルストーリー！

「2019若い人に贈る読書のすすめ」(公社)読書推進運動協議会)の一冊に選ばれました。

光村図書出版株式会社 ●ご注文は、お近くの書店または弊社ウェブサイトです。 www.mitsumura-tosho.co.jp



光村図書

中学校 国語教育相談室 通巻 No.186 2019(平成31)年1月22日発行

発行人＝小泉 茂 発行所＝光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111

www.mitsumura-tosho.co.jp E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp 印刷所＝株式会社 加藤文明社 デザイン＝mg-okada

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」にのっとり、適切な管理・保護に努めてまいります。

詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書出版までご連絡ください。